

はじめに

日常点検の必要性

—安全運行の社会的義務—

1.安全運行の社会的義務

- 日常点検、定期点検整備は法律で定められています。

(道路運送車両法より)

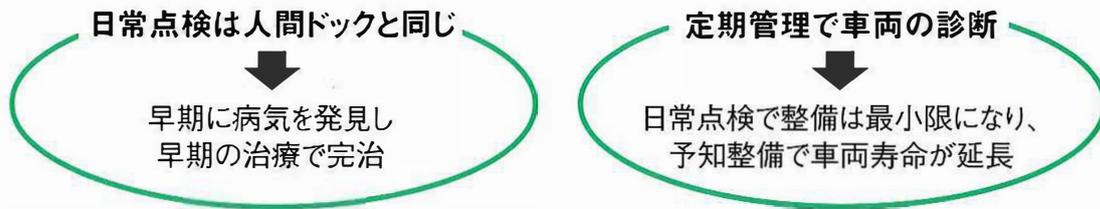
第4章 道路運送車両の点検及び整備(使用者の点検及び整備の義務)

第47条 日常点検：自動車の使用者は、自動車の点検をし、及び必要に応じ整備をすることにより、当該自動車を保安基準に適合するように維持しなければならない。

第48条 定期点検整備：自動車の使用者は、点検の時期及び自動車の種別、用途等に応じ運輸省令で定める技術上の基準により自動車を点検しなければならない。

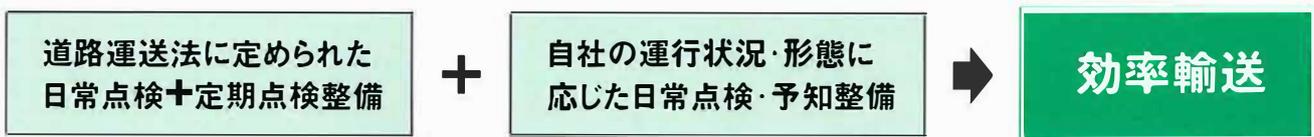
2.車両維持費の低減

- 日常点検と予知整備で大幅な車両維持費の低減ができます。



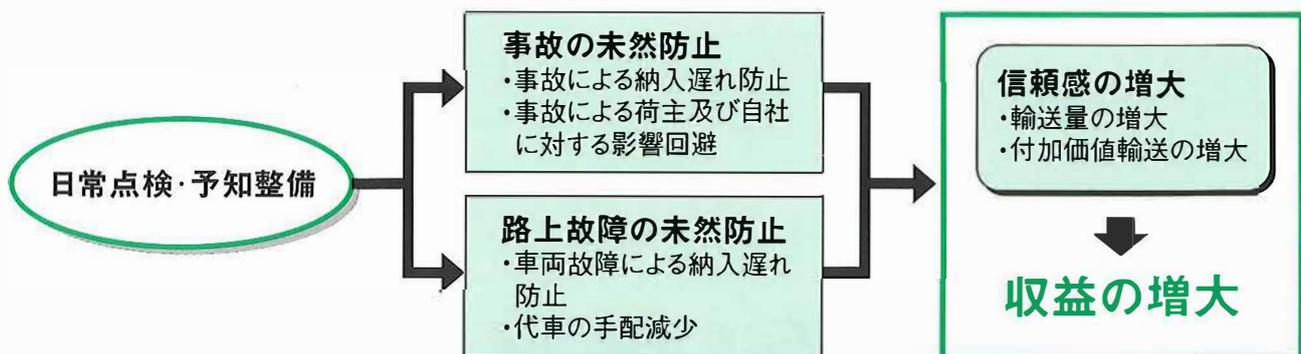
3.輸送効率の向上

- 効率よく輸送するためには法律に定められた日常点検と定期点検整備だけではなく、自社特有の日常点検と予知整備が必要です。



4.発荷主・着荷主への対応

- 定時運行が荷主の信頼感につながります。日常点検は、大切な荷主の商品及び製品を品質維持して着荷主へ届けるために必要です。





Contents

p 4	… 日常点検チェックシート
p 5.6	… 1.ブレーキ
p 7.8	… 2.タイヤ
p 9	… 3.バッテリー
p 10.11	… 4.原動機
p 12	… 5.灯火装置及び方向指示器
p 13	… 6.ウインド・ウォッシャー及びワイパー
p 14	… 7.エア・タンク
p 15	… 8.運行において異常が認められた箇所
p 17.18	… 5分間チェック

■指さし確認で、日常点検チェック!

車両のまわりを回りながら、指さし確認で一つひとつ確実にチェック!

日常点検チェックシート (平成7年7月改正『道路運送車両法』より)

点検箇所	点検内容
1.ブレーキ	・ブレーキ・ペダルの踏みしろが適当で、ブレーキの効きが十分であること。
	・ブレーキの液量が適当であること。
	・空気圧力の上がり具合が不良でないこと。
	・ブレーキ・ペダルを踏み込んで放した場合にブレーキバルブからの排気音が正常であること。
	・駐車ブレーキレバーの引きしろが適当であること。
2.タイヤ	・タイヤの空気圧が適当であること。
	・亀裂及び損傷がないこと。
	・異常な摩耗がないこと。
	・溝の深さが十分であること。
3.バッテリー	・液量が適当であること。
4.原動機	・冷却水の量が適当であること。
	・ファンベルトの張り具合が適当であり、かつ、ファンベルトに損傷がないこと。
	・エンジン・オイルの量が適当であること。
	・原動機のかかり具合が不良でなく、かつ、異音がないこと。
	・低速及び加速の状態が適当であること。
5.灯火装置及び方向指示器	・点灯又は点滅具合が不良でなく、かつ、汚れ及び損傷がないこと。
6.ウインド・ウォッシャー及びワイパー	・ウインド・ウォッシャーの液量が適当であり、かつ、噴射状態が不良でないこと。
	・ワイパーの払拭状態が不良でないこと。
7.エア・タンク	・エア・タンクに疑水がないこと。
8.運行において異常が認められた箇所	・当該箇所に異常がないこと。

*大型車(車輛総重量8トン以上のトラック又は乗車定員30人以上のバス)に対しては、平成19年4月の「道路運送車両法」改正により、「ディスク・ホイールの取付状態が不良でないこと」を確認する項目が追加になりました。日常点検でのホイール・ボルトの点検をお願いいたします。

1. ブレーキ

点検内容 ブレーキ・ペダルの踏みしろが適当で、ブレーキの効きが十分であること。

運転席
点検

点検方法

- 静止した状態で、ブレーキペダルを軽く踏みこむ。

チェックポイント!

- 遊びが適正か(ペダル先端で10~14mm)。
- 引っかかりがなく、スムーズに作動するか。
- ペダルから足を離すと完全に戻るか。

点検方法

- ゆっくり走行し、ブレーキを軽く踏む。

チェックポイント!

- 踏み込みに対応し、充分効くか。
- 片効きがないか。

ワンポイントSafety!

○ブレーキペダルの“遊び過ぎ”は危険!

ブレーキペダルの遊びが大きすぎると、踏んだときのブレーキ対応が遅れる可能性があります。逆に、ペダルの遊びが少な過ぎるのも、微妙なブレーキ操作が困難になります。また、急制動しやすくなるため、雨天時にタイヤロックを引き起こします。

点検内容 ブレーキの液量が適当であること。

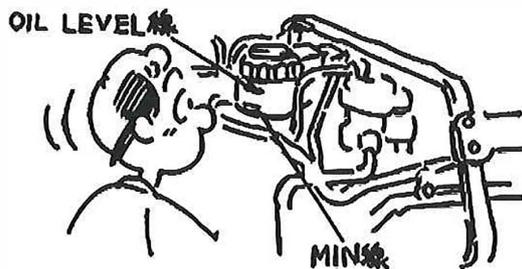
外回り
点検

点検方法

- ブレーキ液タンクの液面の高さを目で見えて調べる。

チェックポイント!

- ブレーキ液タンクの液面が「MIN」線と「OIL LEVEL」線の間にあるか。
- 「MIN」以下の場合は、液漏れの可能性がある。



点検内容 空気圧の上がり具合が不良でないこと。

運転席
点検

点検方法

- 空気圧メーターでエアーが適正状態か目で見て調べる。

チェックポイント!

- エアーが適正状態(7.1~8.5kg/cm)か。

点検方法

- ウォーニングランプが消灯するまでの時間を測る。

チェックポイント!

- 消灯するまでの時間が6分以下か。

点検内容 ブレーキ・ペダルを踏み込んで放した場合に、ブレーキバルブからの排気音が正常であること。

運転席
点検

点検方法

- ブレーキペダルを踏み込んでペダルから足を離す。

チェックポイント!

- ブレーキバルブの排気穴から「プシュー」という排気音が聞こえるか。



点検内容 駐車ブレーキレバーの引きしろが適当であること。

運転席
点検

点検方法

- レバーを戻した状態から静かに引いた時のノッチ数を数える。

チェックポイント!

- 解除した状態から静かに引いて、引き代が4~5ノッチか。



※ノッチ数は車両により異なりますので、取扱説明書をご覧ください。

ワンポイントSafety!

◎ブレーキ・トラブルが燃費も悪くする!

“ブレーキの引きずり”は走行時の抵抗となり燃費を悪化させます。さらに、ブレーキ操作がスムーズに行えないと、効果的なブレーキングが行えず燃費が悪化してしまいます。

◎ブレーキの引きずりに注意!

床板部分の石噛みや、フロアマットの噛込みによる“ブレーキの引きずり”現象に特に注意してください。

ブレーキ・トラブルがまねく

危険!

- 追突事故
- 坂道停車不能
- 荷崩れ・荷傷み

2.タイヤ

点検内容 **タイヤの空気圧が適当であること。**

外回り
点検

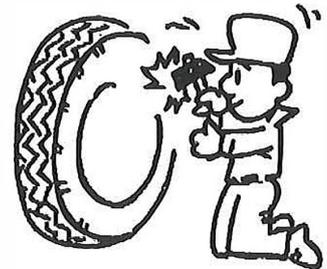
点検方法

- 点検ハンマで叩くか、目で見える。
おかしいと思ったらタイヤゲージで計測する。

チェックポイント!

- タイヤの空気が十分か。**
- 空気圧が基準の数値を充たしているか。**

※空気圧の測定は、走行前のタイヤが冷えているときに行なってください。



ワンポイントSafety!

◎空気圧で変わるタイヤの寿命!

空気圧が高過ぎても、低過ぎてもタイヤの寿命は悪化します。タイヤを長持ちさせるためにも空気圧を適正に保ってください。

◎空気圧が低過ぎると燃費が悪化!

タイヤの空気圧が低過ぎると、タイヤと路面とのこすり抵抗が

大きくなり、燃費が悪化します。

◎空気圧がささえる安全走行!

空気圧が低いと走行中にタイヤがたわみバーストの原因になります。また逆に空気圧が高過ぎると発進・制動時にスリップを引き起こします。

点検内容 **亀裂及び損傷がないこと。**

外回り
点検

点検方法

- 接地面及び側面を目で見て調べる。

チェックポイント!

- タイヤの接地面や側面に亀裂や損傷がないか。**
- くぎや金属片が刺さっていないか。**
- タイヤの接地面や複輪間に石などがかみ込んでいないか。**

ワンポイントSafety!

◎タイヤにはさまった石を見逃さない!

亀裂や石などのかみ込みは、バーストの原因となり危険です。

点検内容 異常な摩耗がないこと。

外回り
点検

点検方法

- タイヤのトレッドを
目で見えて調べる。

チェックポイント!

- トレッドの溝の深さが一
定か。
- 偏摩耗等の部分的な異
常摩耗がないか。

<異物感…化未知>



空気圧が低い状態 空気圧が高い状態

点検内容 溝の深さが十分であること。

外回り
点検

点検方法

- トレッドウェアインジ
ケータが出ていないか
目で見えて調べる。

チェックポイント!

- 溝の深さが基準値に
あるか。
- ウェアインジケーター
が出てきたら、高速道
路走行に不適當。



ワンポイントSafety!

残溝基準

	大型	中型
一般	1.6m/m	1.6m/m
高速	3.2m/m	2.4m/m

タイヤ・トラブルがまねく



- スリップによる衝突・追突事故
- バーストによる走行不能
- ハイドロプレーニング現象によるスリップ事故
- 荷崩れ・荷傷み

3. バッテリー

点検内容 液量が適当であること。

外回り
点検

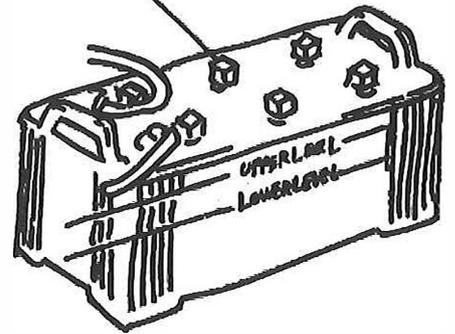
点検方法

●バッテリーの液面の高さを目で見て調べる。

チェックポイント!

●液面が「UPPER」と「LOWER」のレベル線間にあるか。
→液料が不足している場合、蒸留水を補給

補給口のキャップ



ワンポイント Safety!

◎毎日の点検で変わるバッテリー寿命!

適正な液量を保つなど、バッテリーの性能を正常に維持することで、バッテリーの寿命を長持ちさせることができます。

バッテリー・トラブルがまねく

デンジャラス
危険!

●バッテリーあがりによる立ち往生 ●ライトの明るさ不足による夜間事故
●無線等の交信不能

4. 原動機

点検内容 冷却水の量が適当であること。

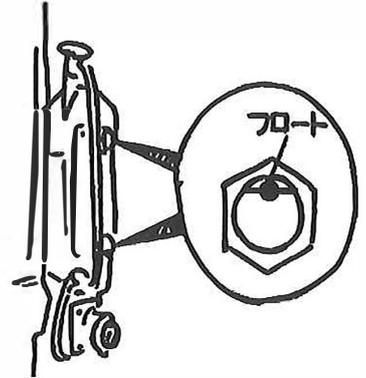
外回り
点検

点検方法

●冷却水サブタンク内の冷却水水面高さを目で見て調べる。

チェックポイント!

●冷却水水面高さが、「MIN」線以上あるか。
→水量不足の場合、水道水とLLCを1:1で混合したものを補給。



ワンポイントSafety!

◎冷却水不足はエンジン寿命を悪くする!

冷却水が不足したまま走行すると、エンジンの燃焼効率や冷却性能を悪化させ、エンジン寿命を悪くする恐れがあります。

◎冷却水温の蒸気での火傷に注意!

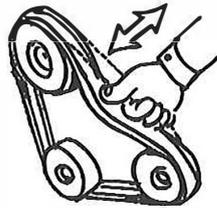
冷却水温が高い時にキャップを開くと、蒸気が吹き出しヤケドをする危険があります。いったん減圧してから開けるか、または温度が下がってから開けてください。

点検内容 ファンベルトの張り具合が適当であり、かつ、ファンベルトに損傷がないこと。

外回り
点検

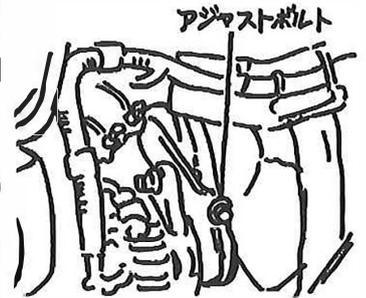
点検方法

●ベルト中央部を指で押して、たわみ具合を確認する。



チェックポイント!

●たわみ量が基準値内にあるか。(親指で強く押して10mm前後)
→たわみ量が基準値外の場合はアジャストボルトを回して、基準値になるよう調整



※たわみ量は、車両により異なりますので、取扱説明書をご覧ください。

ワンポイントSafety!

◎ベルトのゆるみや張り過ぎは故障の原因に!

ファンベルトのゆるみや張り過ぎは、充電不良、ウォーターポンプやジェネレーターの原因となります。

◎見落としがちなファンベルト内側の亀裂!

ファンベルトの内側の亀裂は、見えにくいので見落としがちです。長期間、ファンベルトを交換していない場合、寿命がきていないか特に注意してください。

エンジン・トラブルがまねく

ファンベルト
危険!

●走行不能 ●追突を受ける

点検内容 エンジン・オイルの量が適当であること。

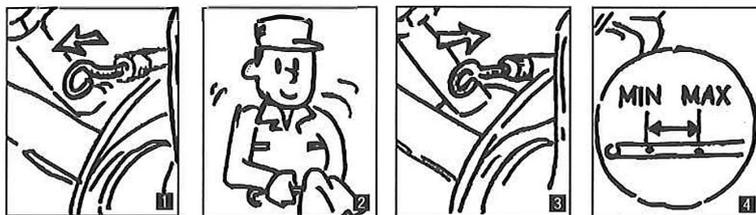
外回り
点検

点検方法

- オイルレベルゲージを抜き、一度拭いてからもう一度いっぱい差し込み、静かに抜き取り、レベルゲージに付着したオイルの位置を目で見て確認する。

チェックポイント!

- オイルが付着している位置が「MAX」と「MIN」の間にあるか。



※メーカー指定のオイルを補給してください。

ワンポイントSafety!

◎点検は平坦な場所で、エンジンの始動前に!

エンジンオイル点検は平坦路で毎日同じ場所で行ってください。エンジン運転中では正確なオイル量は計れません。エンジン停止後、30分過ぎてから行ってください。

◎オイルが多過ぎると燃費が悪化!

エンジンに対して攪拌抵抗が大きくなり、燃費の悪化につながりません。

◎オイルの汚れはエンジンの寿命を縮める!

汚れたままのオイルを使用していると、不純物がエンジン各部の耐久性を低下させ、エンジンの寿命を縮める恐れがあります。特にオイルが白くにごっている場合は水が入っている可能性があります。

◎オイル不足は事故に直結!

オイルが少な過ぎるとエンジンの焼き付けを招き、路上故障の原因となります。

点検内容 原動機のかかり具合が不良でなく、かつ、異音がないこと。

運転席
点検

点検方法

- エンジンを始動し、エンジン音を耳で聴いて確認する。

チェックポイント!

- 異音がないか。

ワンポイントSafety!

◎省燃費は正常なエンジンから!

いくら省燃費運転を心がけても、かんじんのエンジンがトラブルを抱えては穴の開いたバケツで水をくむようなものです。

◎エンジンから悲鳴が聞こえはじめたら、エンジントラブルの前兆!

エンジントラブルの兆候は、まずエンジンの作動音からわかります。正常時のエンジン音を覚えておいて、なにか違う音が聞こえはじめたら、トラブル発生と思いチェックしてください。

点検内容 低速及び加速の状態が適当であること。

運転席
点検

点検方法

- アクセルペダルをゆっくりと踏み込む。

チェックポイント!

- 円滑に回転していて、アクセルペダルに引っかかりがないか。
- エンジンがスムーズに吹き上がるか。

5. 灯火装置及び方向指示器

点検内容 点灯又は点滅具合が不良でなく、かつ、汚れ及び損傷がないこと。

運転席
点検

外回り
点検

点検方法

●**各種ランプ**：各スイッチを「ON」にして、点灯または点滅状態を目で見て確認する。

チェックポイント!

●正常に点灯または点滅するか。

点検方法

●**ブレーキランプ**：ブレーキペダルを軽く踏んで、ストップランプの点灯状態を目で見て確認する。

チェックポイント!

●正常に点灯するか。

点検方法

●**バックランプ**：スタータースイッチを「ON」にし、チェンジレバーを後退位置にした時、バックランプの点灯状態を目で見て確認する。

チェックポイント!

●正常に点灯するか。

点検方法

●**各ウォーニングランプ、パイロットランプ**：スイッチを操作し、点灯状態を目で見て点検する。

チェックポイント!

●正常に点灯するか。

点検方法

●**各ランプのレンズやリフレクター(反射器)**：目で見て確認する。

チェックポイント!

●汚れや損傷がないか。

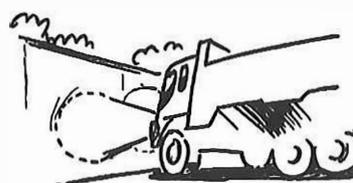
ワンポイントSafety!

◎切れたランプは他のランプにも悪影響!

ランプの電球(バルブ)を切れたまま交換しないでおくと、正常に点灯していた他のランプまで切れる原因となります。電球が切れたときはすぐに交換した方が結果的には経済的です。

◎ひとりの場合壁を使って、ふたりならもっと確実!

点灯、点滅の確認は基本的にふたり一組で行ってください。また、どうしてもひとりでやらなければならない時は、光を車庫の壁等にあてて見ると確認できます。



〈一人の場合〉



〈二人の場合〉

8. 運行において異常が認められた箇所

点検内容 当該箇所に異常がないこと。

運転席
点検

修理

●昨日または前回の運転で異常のあった
箇所を適切な処置又は修理をする。

チェックポイント!

●正常に戻っているか。

外回り
点検

ワンポイントSafety!

◎異常箇所は経費タレ流しのもと!

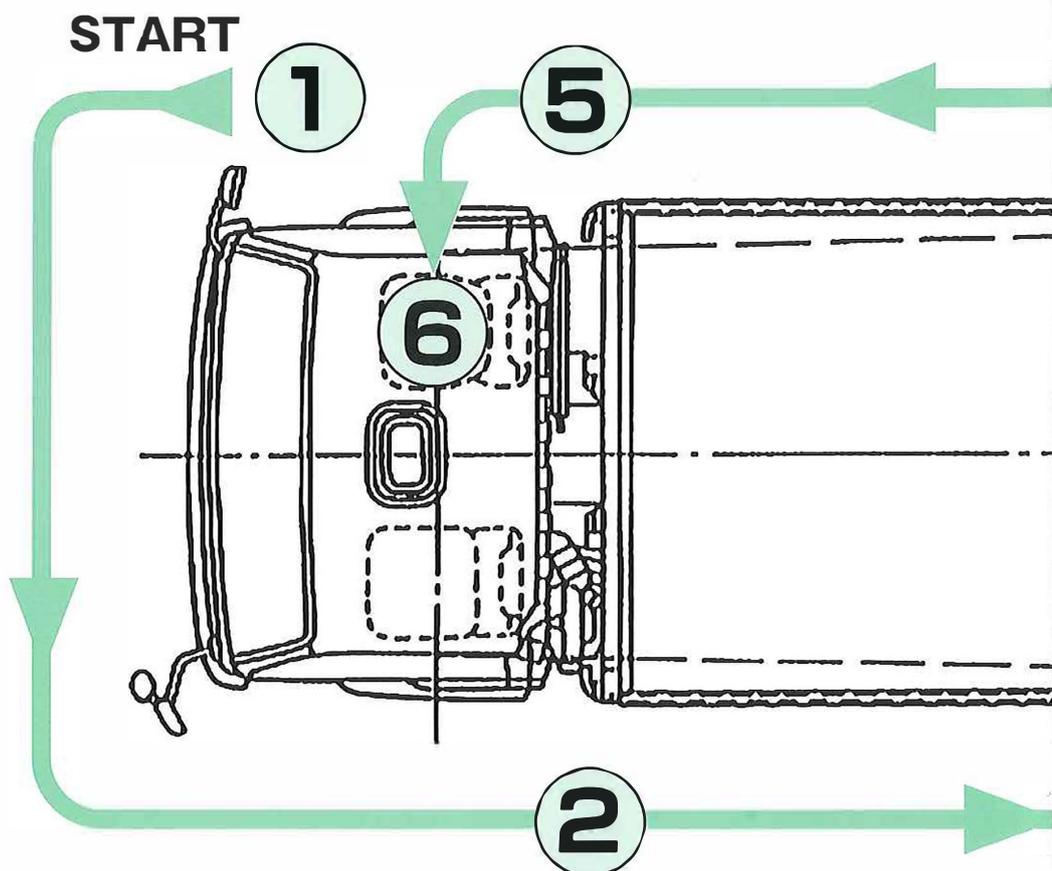
異常箇所は燃費悪化や他の箇所の故障の原因にもなり、まさに運行経費のタレ流しのもとになります。速やかに対処することが経費を最小限に止めます。

◎安全運行を生み出す安心感!

異常箇所をそのままに運行することは文字どおり異常走行です。必ず、異常箇所を正常に直してから安心して走行してください。

トラックのまわりをぐるっと回って、
5分でできる日常点検

5分間チェック!!



①キャブ内

- ベッドの中を見る
- オープンリッドを開ける

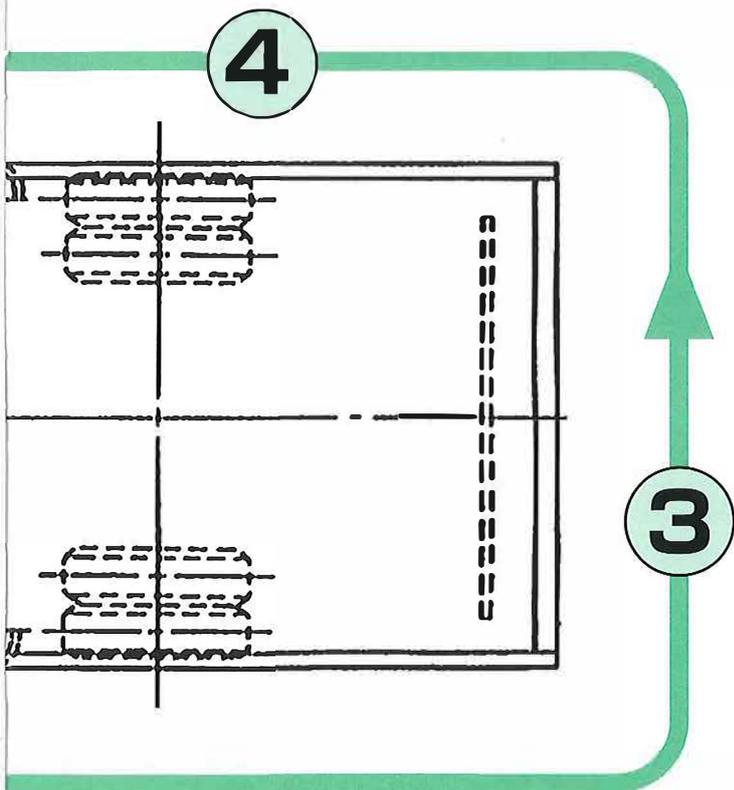
キャブ外観

- ウィンドウを見る
- ウインド・ウォッシャーの液量
- エンジンオイルの液量
- オープンリッドを閉める
- フロント側からランプ類の汚れや損傷を見る

②キャブチルト

- キャブチルトする
- ファンベルトのハリを見る
- キャブを降ろす
- 左フロントタイヤの点検
- 冷却水の点検(右側に着いている車両もある)
- 左サイドのウインカーランプの汚れや損傷を見る
- 左リヤタイヤの点検

日常点検は憶えてしまえばとても簡単で短時間でできます。キャブの前からはじめて、左回りにトラックを1周。最後に運転席に座って終了。この間、約5分。ぜひ毎日の運行の前に励行してください。またこの項目の他に、昨日または前回の運転で異常のあった箇所の点検を忘れずに!



3

- リヤランプ類の汚れや損傷を見る

4

- 右リヤタイヤの点検
- 右サイドのウインカーランプの汚れや損傷を見る
- バッテリー液量の点検
- エア・タンクの水抜き
- ブレーキオイル液量の点検
- 右フロントタイヤの点検

5 キャブに乗り込んで

- ミラーの映り具合
- ブレーキペダルの点検
- 駐車ブレーキの点検

6 エンジンを始動

- エンジンのかかり具合と異音
- ウインド・ウォッシャー噴霧・作動状態
- 空気圧の上り具合
- ブレーキバルブの排気音
- 各種ランプの点検

ゆっくり走って

- ブレーキのきき具合